

佳作

## ゆめがかなったたん生日

徳島県 徳島文理小学校二年 高尾 優一郎

ぼくは毎年、ピアノのコンクールにちょうせんしています。一ばん長いき間かかるのが、なつに行われるコンクールです。三月にかだいがはっぴょうされて、五月からよせんがあり、七月から八月に本せん全国大会があります。ぼくは、このコンクールに、年中のころからちょうせんしていますが、これまでのせいせきは、二年れんぞくで本せんゆうしゅうしゅうです。本せんから全国大会にすすめるのはいい人だけで、そのつぎがゆうしゅうしゅうしゅうなので、みんなが

「ゆうしゅうしゅう、すごいね。」

と言ってくれても、ぼくは、あとちよつとで全国大会に行けたのに、とおもうとくやしいし、なきたくなるようでした。こ年こそは、全国大会に行きたい、とおもって、ぼくは、作せんをたてました。

ぼくの家では

「学校のべんきょうが一ばん。べん強ができないならピアノはやめるよ。」

と言って、たくさんのしゆくだいがおわるまで、ピアノにさわらせてもらえませんが、だから、ぼくは、学校の帰りの車にのっている時間をゆうこうにつかおうとおもいました。かん字ドリルの読みはできるけれど、書く方は、車がゆれてダメです。音読や、九九をおぼえるのもできます。ぼくは、どんどん、ピアノのれんしゅう時間をちよ金しました。ピアノは、ソロだけではなく、おとうとどのれんだんにもちようせんしていたので、本とうに大へんでした。がくふなんか、なくてもあたまの中にうかぶくらいれんしゅうしました。

そして、いよいよ八月三日。ソロの本せんの日がきました。四国本せんだから、四国中の人や、おかし、こうべの人たちもきます。ぼくは、きんちゅうで、気もちがわるくなつたけれど、一生けんめいひきました。「やりきつた」とおもいました。でも、八十人くらい、さんかしていたので、なんのしようももらえないかもしれないとおもいました。

いよいよ夜、けつかを見に行つて、ぼくは「あ

っ」とおもいました。ぼくの名まえは、かん字で書くとき五文字なので、ほかの人より一文字ながいから、すぐ見えるのです。なんと、今年もゆうしゅうしゅうでした。〇・〇二でんさで、全国大会に行けなかったのです。ぼくは、とてもがっかりしたけれど、のこったチャンスのれんだんのれんしゅうをしました。そうしたら、八月五日、ぼくのたん生日に、れんだんぶもんで一いをもらえ、全国大会けっしゅうに行くことになったのです。

ぼくは今まで、「ゆめがかなう」というのは、サントさんにプレゼントをもらったりすることとかだとおもっていたけれど、今回のことで、「ゆめがかなう」といういみがわかりました。ゆめは、じ分でど力してかなえるものなのです。ぼくは、はじめて、大きなゆめがかなって、うれしかったです。それに、おとうと一しよに全国に行けてよかったです。また、あたらしいゆめをさがしたいです。